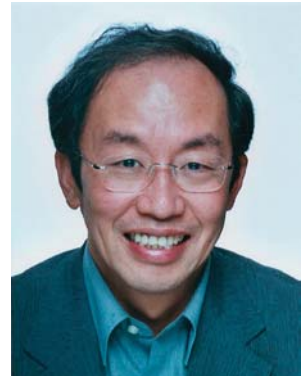


## 近代の終わりに 電子情報通信技術は…

副会長 原島 博



電子情報通信技術は、今めざましい勢いで進化しています。

例えばコンピュータについていえば、私自身が大学院生として研究者の仲間入りをした1960年代は、それは文字どおり科学技術用の計算機でした。それが1970年代のC&Cの時代には、大形コンピュータが企業の情報化の基盤となり、1980年代のマルチメディアの時代には、パーソナルコンピュータが個人の情報化を促しました。1990年代はネットワークの時代になりました。インターネット、ブロードバンド、ユビキタスなどがキーワードとなって、私たちが生活する社会そのものの情報化が進展しました。そして21世紀、電子情報通信技術はますます発展しています。

一方で、今の時代が様々な課題を抱えていることを忘れてはいけません。特に地球温暖化に象徴される環境問題は深刻です。時々思うことがあります。このような時代を、例えば500～1,000年後の歴史家はどのように未来の歴史書に記すのだろうか。

逆に今から500～1,000年前を振り返ってみると、今の地球の状況は中世末期のヨーロッパ大陸に似ています。11世紀から13世紀にかけて、ヨーロッパでは絶対なる神のもとで教会と修道院が中心になって大陸の大開墾が行われ、経済が発展しました。一方で大開墾はヨーロッパ大陸の生態系を乱し、それに続く14世紀と15世紀は最悪の時代になりました。天候不順、飢饉、伝染病（ペスト）の流行、そして戦争…。こうして中世は終わりました。

未来の歴史書には、中世においてヨーロッパ大陸で起きたことが、近代には地球規模で起きたと書かれるかもしれません。近代という時代は、科学が絶対なる神となり、そのもとで産業革命が起こり、専ら物の豊かさを追求して地球の大開墾が行われ、地球の生態系を乱し、結果として人類史上最悪の時代を迎え…。そして近代が終わったと。

このように記すと絶望的になります。でも、決してあきらめることはありません。近代の終わりは、そのまま次の時代の始まりでもあります。歴史をひも解いてみると、中世から近代へかけて、まずはルネッサンスが起こり、新たな近代へ向けた文化運動が始まりました。新大陸の発見もありました。もしかしたら20世紀後半の宇宙開発、人類初の月面着陸は、一種の新大陸発見といえるかもしれません。

更には、ルネッサンスの時代には画期的な情報メディア技術としてグーテンベルグの活版印刷術が発明されました。それは新たな知の流通をもたらし、宗教改革の一つのきっかけとなりました。コンピュータの誕生は、そのちょうど500年後です。それはどのような形で未来の歴史書に記されるのでしょうか。次のように記されたらこれから面白い時代が来ます。「中世末期に登場したグーテンベルグの印刷術と同じように、近代末期に登場した電子情報通信技術は次の新たな時代を切り開くきっかけとなった」と。

今の電子情報通信技術の進歩は数年後の予測も難しいほどです。皆、現在のことしか考えられなくなっています。でもそのような時代だからこそ、長い人類の歴史の中で今を位置付ける視点も大切であると思っています。その意味ではこれからが出番です。新しいメディアは新しい文化を生み出します。まさにメディアルネッサンスの時代の到来です。